

「ぎよしよく」を柱に 地域を活性化！

産業の活性化は地元がキーワード

愛媛県愛南町は、平成16年10月に5つの町と村が合併して誕生した人口2万6千人の町です。四国の西南部に位置し、黒潮と宇和海の豊かな漁場環境に恵まれ、四国一のカツオ水揚量を誇る漁船漁業や、魚類・真珠養殖業、水産加工業など、水産業が町の基幹産業となっています。しかし、消費者の「魚離れ」の影響や輸入水産物の拡大等により、町の水産業取扱額も全盛期の半分まで激減しています。そのため、行政も水産業の振興を図るために、水産課内に産業振興室を設置し、新たな販路の



拡大や特産品の開発を行いながら「愛南ブランド」の確立を目指しています。県内外へ水産物の販売促進活動をしていると「地元では、どのようにおいしく魚を食べているのですか？」と質問される機会があります。

「愛南町の水産物は、おいしいですよ。」とPRするためには、地元でしっかりと水産物への理解や消費拡大が来ていなければならぬと痛感しました。そのためには、販売推進に力を入れていく事と共に、愛南町内での水産業への理解や水産物の利用を拡大する事業も実施する必要があります。



兵頭 重徳

愛南町ぎよしよく普及推進協議会事務局
愛南町役場水産課
産業振興室係長

魚食から「ぎよしよく教育」へ

愛南町では、合併前の旧町から継承した魚食普及推進協議会を設置して、町ぐるみで水産物の消費拡大のサポートをしており、私も、この協議会事務局として活動のお手伝いをしています。これまで、小中学校の児童生徒を対象に、調理実習をして食事会等のお世話をしていました。しかし、調理と食事のみの単発的な活動だけで、水産物への理解が本場になされているのか疑問を感じていました。

そこで、平成17年当時、町内の海洋環境調査を依頼していた愛媛大学農学部先生を介して水産社会科

学系の先生方と情報交換する機会が得られました。その際に、愛媛大学で水産版食育を検討する「ぎよしよく教育」研究推進プロジェクトチームが発

「ぎよしよく教育」プログラム

- ①魚触（魚の調理実習や魚に直接触れる等の体験学習）
- ②魚色（属）（魚の種類や栄養等の魚本来の情報に関する学習）
- ③魚職（魚の生産・流通現場を知る学習）
- ④魚殖（魚の生産“養殖”現場を知る学習）
- ⑤魚師（飾り海老や祝い鯛などの伝統的な魚文化の学習）
- ⑥魚食（魚本来の味を知る学習）
- ⑦魚織（水産業に関連する組織についての学習）

※次なるコンセプトとして、山に木を植えて山から海の世界を考える「魚植」、魚にはおいしい旬があり、季節として活用されていることから、俳句を使っておいしさを伝える「魚書句」なども開発中です。

愛南町役場 <http://www.town.ainan.ehime.jp/>

足することを知り、愛南町がフィールドを提供したわけです。小学校や幼稚園での実践を通して、教育プログラムを策定することになりました。

ひらがなで表現する「ぎょしょく」とは、
①魚触②魚色③魚職④魚殖⑤魚飾のそれぞれの学習プロセスを経て、最後に⑥魚食に到達する、系統的で総合的な魚・水産版の食育コンセプトです。魚への興味を持たせたり、魚の栄養について理解させたりするという個々の目的にとどめず、魚に関する全ての事柄を包括的で、かつ、体系的に理解し実践させることを最終目的としています。

「ぎょしょく教育」から、次なる展開へ

①カードゲーム「ぎょショック」の開発

子どもたちが日常の遊びのなかで、地元の水産物や魚料理・水産業をめぐる問題まで、総合的に楽しみながら学べるツールとして、日

本初の「ぎょしょく教育」カードゲームを愛媛大学のプロジェクトチームと共同



で、農水省の補助を受けて開発しました。一日に何をどれだけ食べたらよいかを示した食事バランスガイドとも連動した内容も盛り込んでいます。

②ローカルヒーロー「愛南ギョレンジャー」誕生

愛南町水産業のPRと海の環境を守るために、ローカルヒーロー「ぎょしょく普及戦隊「愛南ギョレンジャー」が誕生しました。デザインを町内の小学生に依頼して、誰もが変身して楽しめるローカルヒーローとしています。地元の理解と水産物情報発信ツールとして活躍中です。

③観光バスツアー「ぎょ・ショック」の運行

一般の方では入場できない漁協魚市場の見学やセリ体験など、水産業を身近に感じ、魚をおいしく食べてもらう事を目的としてバスツアーを運行しています。企画の中心に「ぎょしょく教育」を置き、水産業体験メニューを開発しながら愛南町の特色ある観光の目玉にしています。

愛南町を「ぎょしょく」の町に

現在、愛南町では、町の特産品を安心して消費者にご利用いただける体制づくり

として、地域ブランドの確立を目指しています。地域ブランドとは、差異化され満足度の高い商品と魅力ある地域とが相乗効果をもたらし、かつ、持続し続ける仕組みが完成して実現するものです。食事の重要性を伝える従来の食育活動も重要ですが、「ぎょしょく教育」を魅力ある地域づくりの柱に置き、起爆剤として活用し、さらに展開することで地域ブランド、すなわち「愛南ブランド」の確立に繋がるものと考えています。

